

駿河湾のプランクトン調査

水産学科生物生産学専攻 松浦研究室

松浦研究室では、東海大学が保有する小型実習船“北斗”を用いて、毎月 2 回、ほかの研究室と一緒に調査を行っています。今回はその月例調査とは別に、駿河湾内の 2 測点で深度 0~800 m の間の各深度でプランクトンを採集する深度別採集をしてきました。

天気は悪いですが、出港！



4月中旬に行った調査で、この日はまだ寒かったので、学生たちは防寒の装備で着ぶくれしています。調査装備はとても重要です！

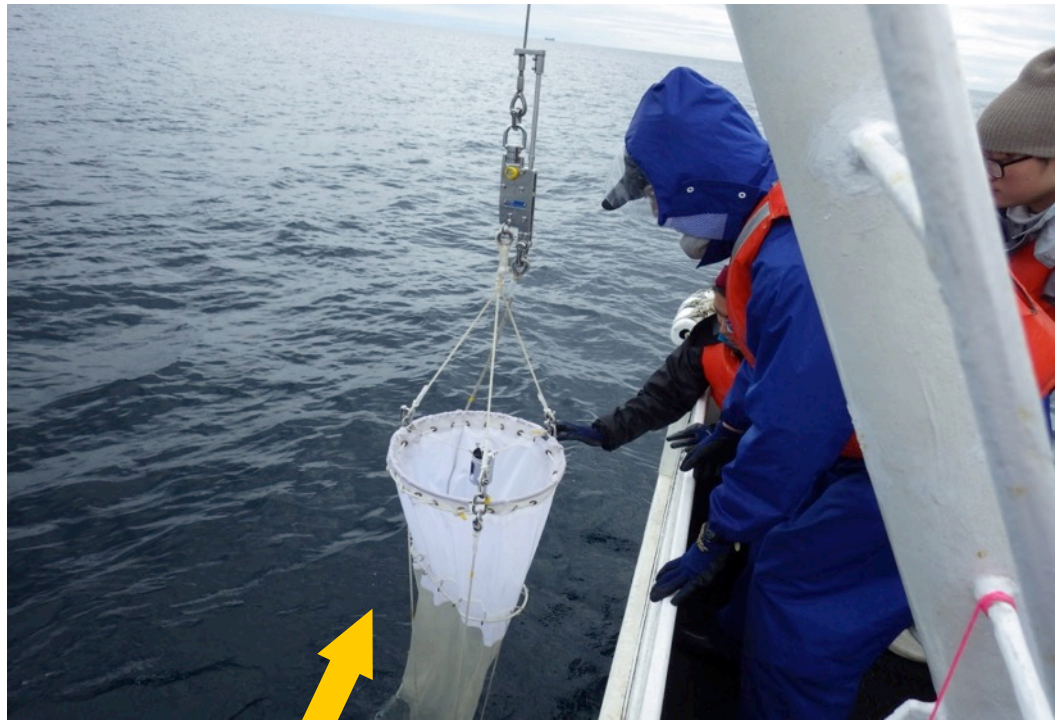
プランクトンネットを目標の深度まで下ろして、網を曳きます。対象深度の曳網が終了したらネットを閉鎖させて、他の深度のプランクトンがネット内に入らないようにして回収します。



ネットを閉鎖させるためのメッセンジャーをあらかじめセットして、すべり落ちないようにヒモで支えています！
目標深度になったら、紐を放してメッセンジャーを落とします。



ネットが上がってきました！
ちゃんと閉鎖しているかな
.....あれ？



おや？ネットが閉まっていません。
メッセンジャー・閉鎖装置が上手く機能しなかったようです
.....失敗かぁ.....そんなこともあるよね。
もう一度やり直しです。



徐々に晴れてきました！午前中は生憎の雨でしたが、午後は晴れ、風も波も非常に穏やかだったため、船もほとんど揺れずとても快適でした(´▽`)

～どんなプランクトンが採れたかな～



研究室に戻って、どんなプランクトンが採集されたか、顕微鏡でチェックです。

いろんなプランクトンが採れましたね！右上に数個体が写っている丸い風船のような形の生き物は「夜光虫」です。体が軽くて浮きやすいので、深度0～100 mの表層からの採集では、たくさん採れました。この時期から暖くなるについて、だんだんと生息数が増えていくんですよ。

ほかにはカイアシ類、尾虫類、オキアミ類の幼体、何かのノープリウス幼生、魚卵もありますね。

カイアシ類

海に生息するプランクトンの中で、最も数や量が多い生き物です。



ヤムシ類

頭部の拡大写真です。頭の横から生えてる顎毛で、ガブリとエサに噛み付く肉食者です！でも、つぶらな眼がキュートなの♡



深海のアミ類

エビに似ていますが異なる動物です。深海性のレアな種類が採れてるじゃん！よ〜く見ると、眼が特殊化してます。

オニハダカ類

体長 5~6 cm と小さいけど、深海魚も採れました。オニハダカの仲間は 200 m 以深までネットを下ろすと必ず採れるほど、個体数が多い深海魚です。

これ以外にもたくさんのプランクトンが採集できました。卒研生達は何がどれだけ、どの深度に分布しているかを、これから分析です。プランクトンのサンプルには膨大な個体数と種数が入っていますが、分類群と種の同定が素早くできるようになると、レアな深海生物にも気付けるようになって一気に楽しくなります。スキルが上がるまでは修業の日々なのです。さあ、がんばるぞ！